

【平成 29 年度看護職員の特定行為研修に関する実態調査結果】

I 概要

- 1 調査名：看護職員の特定行為研修に関する実態調査
- 2 調査目的：県内に従事する看護職員の特定行為研修に関する現状把握と今後の対策の方向性を検討し、事業や施策内容に反映する。
- 3 調査対象：県内の病院 350 施設、訪問看護ステーション 601 施設、介護保健施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）551 施設、診療所（診療所は県医師会に依頼）
- 4 調査時期：平成 29 年 10 月 23 日～11 月 6 日
- 5 調査内容：特定行為研修の受講者の有無、希望、指定医療機関・実習協力機関への申請意向等
- 6 調査方法：アンケート調査
(配布：郵送およびホームページ、回答：FAX 又はメールによる回答)
- 7 回答数：病院 245 施設 (70.0%)、訪問看護ステーション 164 施設 (27.3%)、介護保健施設 342 施設 (62.1%)、診療所 20 施設

II 結果

(1) 特定行為研修の受講について

① 特定行為研修を受講した職員の有無

(施設)

	病院	訪問看護ステーション	介護保健施設	診療所
受講あり	8 (3.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
受講なし	237 (96.7%)	164 (100%)	342 (100%)	20 (100%)
計	245 (100%)	164 (100%)	342 (100%)	20 (100%)

② 今後の特定行為研修の受講希望

(施設)

	病院	訪問看護ステーション	介護保健施設	診療所
希望あり	60 (24.5%)	50 (30.5%)	46 (13.5%)	3 (15%)
希望なし	185 (75.5%)	114 (69.5%)	296 (86.5%)	17 (85%)
計	245 (100%)	164 (100%)	342 (100%)	20 (100%)

③ 受講を希望する人数及び特定行為区分

1) 人数 (実人数)

(人)

	病院	訪問看護ステーション	介護保健施設	診療所
実人数	267	131	96	4

2) 特定行為区分 (複数回答) ※数字は施設数

(施設)

No.	特定行為区分	病院	訪問看護ステーション	介護保険施設	診療所
1	呼吸器 (気道確保)	19	6	8	0
2	呼吸器 (人工呼吸療法)	27	15	1	1
3	呼吸器 (長期呼吸療法)	23	11	3	0
4	循環器	12	7	3	0
5	心嚢ドレーン	6	1	0	0
6	胸腔ドレーン	8	2	0	0
7	腹腔ドレーン	8	1	0	0
8	ろう孔管理	13	9	5	0
9	中心静脈カテーテル管理	19	9	2	1
10	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理	18	4	1	0
11	感染に係る薬剤投与	25	11	14	0
12	創傷管理	37	28	30	0
13	創部ドレーン	13	3	0	0
14	動脈血液ガス分析	10	0	0	0
15	透析管理	12	2	1	0
16	栄養及び水分管理に係る薬剤投与	34	17	19	0
17	血糖コントロールに係る薬剤投与	26	13	16	0
18	術後疼痛管理	12	3	0	0
19	循環動態に係る薬剤投与	10	3	2	0
20	精神及び神経症状に係る薬剤投与	20	13	19	1
21	皮膚損傷に係る薬剤投与	15	22	20	1
	計	367	180	144	4

④ 受講を希望しない理由 (N=受講を希望しないとした回答数)

項目	病院		訪問看護 ステーション		介護保健 施設		診療所	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%
1 受講中の人員不足	32	17.3%	50	43.9%	39	13.2%	0	0.0%
2 受講料の負担	2	1.1%	3	2.6%	4	1.4%	0	0.0%
3 周囲の理解不足	7	3.8%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
4 必要性がない	85	45.9%	28	24.6%	132	44.6%	7	41.2%
5 職員の資質の問題	12	6.5%	2	1.8%	8	2.7%	0	0.0%
6 その他	30	16.2%	9	7.9%	17	5.7%	9	52.9%
7 無記入	17	9.2%	20	17.5%	96	32.4%	1	5.9%
計	185	100.0%	114	100.0%	296	100.0%	17	100.0%

⑤ 受講にあたっての課題 (N=全回答病院)

項目	病院		訪問看護 ステーション		介護保健 施設		診療所	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%
1 研修機関の数・立地	15	6.1%	11	6.7%	12	3.5%	0	0.0%
2 研修機関・費用・内容	31	12.7%	17	10.4%	19	5.6%	1	5.0%
3 行政等の補助支援	3	1.2%	5	3.0%	3	0.9%	0	0.0%
4 事業所等の体制整備	46	18.8%	31	18.9%	31	9.1%	0	0.0%
5 医師等との連携	16	6.5%	4	2.4%	5	1.5%	0	0.0%
6 その他	13	5.3%	7	4.3%	35	10.2%	4	20.0%
7 無記入	121	49.4%	89	54.3%	237	69.3%	15	75.0%
計	245	100.0%	164	100.0%	342	100.0%	20	100.0%

(2) 指定研修機関の意向について

項目	病院		訪問看護 ステーション		介護保健 施設		診療所	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%
1 既に指定研修機関である	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2 申請の意向がある	4	1.6%	0	0.0%	3	0.9%	0	0.0%
3 申請の意向はない	239	97.6%	164	100.0%	339	99.1%	20	100.0%
計	245	100.0%	164	100.0%	342	100.0%	20	100.0%

(3) 実習協力施設の意向について

項目	病院		訪問看護 ステーション		介護保健 施設		診療所	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%
1 既に実習協力施設である	9	3.7%	0	0.0%	4	1.2%	0	0.0%
2 申請の意向がある	3	1.2%	1	0.6%	3	0.9%	0	0.0%
3 申請の意向はない	233	95.1%	163	99.4%	335	98.0%	20	100.0%
計	245	100.0%	164	100.0%	342	100.0%	20	100.0%

(4) 特定行為研修を受講した看護職員について

① 受講した特定行為区分 (延べ人数)

No.	特定行為区分	病院	
		H27	H28
1	呼吸器 (気道確保)	2	7
2	呼吸器 (人工呼吸療法)	5	9
3	呼吸器 (長期呼吸療法)	5	8
4	循環器	1	5
5	心嚢ドレーン	1	5
6	胸腔ドレーン	1	5
7	腹腔ドレーン	1	5
8	ろう孔管理	1	5
9	中心静脈カテーテル管理	1	6
10	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理	1	5
11	感染に係る薬剤投与	5	8
12	創傷管理	5	9
13	創部ドレーン	1	5
14	動脈血液ガス分析	1	5
15	透析管理	1	5
16	栄養及び水分管理に係る薬剤投与	5	8
17	血糖コントロールに係る薬剤投与	5	8
18	術後疼痛管理	1	5
19	循環動態に係る薬剤投与	1	5
20	精神及び神経症状に係る薬剤投与	5	8
21	皮膚損傷に係る薬剤投与	1	6
計		50	132

② 特定行為研修修了者の特定行為実施の有無

- 1) 実施している… 7施設 (87.5%)
- 2) 実施していない… 1施設 (12.5%)
(理由：研修が終了したばかりであるため。)

③ 特定行為研修修了者の所属部署

- 1) 看護部… 8施設
- 2) その他部署… 0施設

④ 特定行為研修修了者の活動場所（複数回答）

- 1) 病棟… 6施設
- 2) 救急部門（ICU・HCU等）… 4施設
- 3) 外来… 2施設
- 4) 部長室（組織横断的）… 1施設

⑤ 特定行為研修修了者の活動内容

1) 特定行為の実施

- ・人工呼吸器からの離脱
- ・気管カニューレの交換
- ・褥瘡の治癒における血流のない壊死組織の除去
- ・褥瘡に対する陰圧閉鎖療法

2) その他

- ・褥瘡回診
- ・特定行為研修生の実習のフォロー。
- ・集中ケア認定看護師として特定行為及び看護教育を実施。

⑥ 特定行為研修修了後の成果と課題

1) 成果

- ・スキルアップ意識が向上した。
- ・医師の手順書があれば、手順書の範囲内での業務ができるため、スムーズにケアができる。
- ・褥瘡回診以外にも、日々の褥瘡観察により早期に介入ができ、治癒の促進等効果が出ている。

2) 課題

- ・病院内では感染、栄養のための薬剤投与が難しい（医師配置のため）。
- ・手順書の内容や、カルテ記載を細かく記入する必要がある。
- ・手順書の作成など医師の理解が必要である。
- ・看護師や他の医療スタッフの特定行為についての理解が必要である。

(5) 指定研修機関について

① 受け入れ人数（延べ人数）

No.	特定行為区分	指定研修機関	意向あり
1	呼吸器（気道確保）	5	2
2	呼吸器（人工呼吸療法）	5	2
3	呼吸器（長期呼吸療法）	3	9
4	循環器	0	2
5	心嚢ドレーン	0	2
6	胸腔ドレーン	0	2
7	腹腔ドレーン	0	3
8	ろう孔管理	0	2
9	中心静脈カテーテル管理	0	2
10	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理	0	2
11	感染に係る薬剤投与	0	9
12	創傷管理	3	9
13	創部ドレーン	5	3
14	動脈血液ガス分析	8	2
15	透析管理	3	4
16	栄養及び水分管理に係る薬剤投与	8	10
17	血糖コントロールに係る薬剤投与	3	7
18	術後疼痛管理	5	2
19	循環動態に係る薬剤投与	5	4
20	精神及び神経症状に係る薬剤投与	0	4
21	皮膚損傷に係る薬剤投与	0	2
	計	53	84

② 指定医療機関申請にあたっての課題

- ・症例患者の選定が困難
- ・指導医の不足

(6) 実習協力施設について

① 受け入れ人数（延べ人数）

No.	特定行為区分	実習協力機関	意向あり	
1	呼吸器（気道確保）	7	0	
2	呼吸器（人工呼吸療法）	9	1	※1
3	呼吸器（長期呼吸療法）	3	2	※1
4	循環器	0	2	
5	心嚢ドレーン	0	2	
6	胸腔ドレーン	0	2	
7	腹腔ドレーン	0	2	
8	ろう孔管理	0	2	
9	中心静脈カテーテル管理	1	3	
10	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理	0	2	※1
11	感染に係る薬剤投与	4	4	※1
12	創傷管理	5	5	※1
13	創部ドレーン	7	2	
14	動脈血液ガス分析	5	2	
15	透析管理	2	2	
16	栄養及び水分管理に係る薬剤投与	11	4	※1
17	血糖コントロールに係る薬剤投与	1	2	※1
18	術後疼痛管理	5	2	
19	循環動態に係る薬剤投与	7	2	
20	精神及び神経症状に係る薬剤投与	3	2	※1
21	皮膚損傷に係る薬剤投与	0	2	
計		70	47	

※1 実習協力機関の受け入れにおいて、定員が定まっていない病院もあり

②実習を行う協力施設として課題となること

- ・症例数の確保や選定が困難（6か月以内の選定など）
- ・指導体制の整備（指導医の人員確保、指導にあたる人員の研修機会の確保等）
- ・設備の整備